



教室のご案内

バードウォッチング（自由参加）

8月24日、9月28日（日）

午前9時～11時

※集合場所は林泉の池堰堤

草木染め教室（要申込：定員10人）

9月21日（日）午前9時～11時

ネイチャーセンター ※染めるためのハンカチ大の白い布を持参

8月下旬から9月上旬にかけて、遊歩道脇の日当たりの良い湿地で、紫色の筒状の優美な花に出会えます。ユリ科多年草のミズギボウシです。
「ミズギボウシ（水擬宝珠）」は、日本各地の湿原や沼地などの湿った土地に自生している在来植物です。生育分布は愛知県以西とされていますが、陶史の森でも見られます。別名をナガバミズギボウシとも呼ばれ、葉の形状が特徴的です。

ミズギボウシは、湿地の開発や乾燥のため絶滅危惧種に指定されている地域もあります。陶史の森でも大切に守っていききたいものです。
ミズギボウシは、花の筒が細く1cmから2cm程しかありません。花は長さ4cmぐらいの細長い筒状で、高さ50cm程の茎の上部に3～5個が横向きに咲きます。花の色は紫色ですが、よく見ると白い線が混じっています。また、花の中をのぞくと濃紫色の筋が見え、とても上品な花に見えます。

湿地の宝珠 ミズギボウシ

トキハク
プロジェクト

新博物館準備だより

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館
(☎55-1245)



蛙付染付鶴図鳴き德利



8月23日～11月3日に、岐阜県美術館（岐阜市）で美濃陶磁歴史館の収蔵品と土岐市の文化財を紹介する展覧会『古墳時代から織部、そして現代へ』が開催されます。この展覧会は、休館中の当館の収蔵品を活用し、岐阜地域で土岐市の名品を知っていただくよう行われるものです。
左の写真は出品作品の一つで、「蛙付染付鶴図鳴き德利」という大正昭和初期の德利です。「鳴き德利」あるいは「うぐいす德利」と称され、酒を注ぐ際に「ヒョー、ヒョロヒョロ」と鳥のさえずりのような音が出る、趣向を凝らしたものです。装飾にも特徴があり、上部に金色の

第16回 岐阜県美術館で土岐市の名品展開催



下石町での德利製造風景（昭和中ごろ）



Instagram



X

カエルが乗っかり、側面には金華山と鶴の図が、反対側には「岐阜はよいとこ 金華山のふもと小田の蛙が寝て聞ける」と岐阜音頭の歌詞の一部が描かれています。岐阜の宴席で用いるために考案されたものだったのででしょうか。その他にも、土岐市を代表する作品の数々が展示されます。ぜひ足を運ぶください。
また、7月の市政報告会でも新博物館の紹介を行いました。今後さまざまな場で計画をお伝えしていきます。ご注目ください。
※当館の公式SNSで、鳴き德利の音色を鑑賞できます。ぜひお聴きください。